

就任のあいさつ



前列左から中山哲夫、森山幸朗 後列左から舟木弘美、酒井真知子

島根県保育協議会 会長 中山 哲夫
(松江市 ふたば保育所 所長)

このたびの役員改選により引き続き二カ年間に会長職を務めることとなりました。会員各位のご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、先日は松江市において第59回中国地区保育研究大会を開会式に溝口島根県知事、松浦松江市長、万田康全保協会長他多数のご来賓をお迎えして盛会裏に開催することが出来ました。ご支援、ご協力いただきました皆さまに紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年8月に国会において「子ども子育て関連三法」が成立し、平成27年度施行に向けて本年度その具体的な中身を検討する「子ども・子育て会議」がスタートしました。全保協からも代表をそのメンバーとして送り出していますが、将来の子育て施策、保育所制度を決定づける極めて重要な会議であります。この機会に細部にわたる事項の確認を丁寧に行い、国の恣意的判断による通知通達に振り回されない制度実現に向けて島根県保協としても今まで以上に現場、地方の声、思いを積極的に届けるノイジーマイノリティに徹してまいりたいと思います。各位一層のご理解をお願い申し上げます。

島根県保育協議会 副会長 森山 幸朗
(雲南市 あおぞら保育園 園長)

引き続き副会長を務めることになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。さて、保育の新制度の骨格は関連3法に定められていますが、その詳細はこれから具体化されていきます。多様な保育施設・事業が併存し、多様な基準と異なる公的責任が出来て、結果として現行制度から大きく後退する危険性があります。格差と不平等を持ち込ませないために、あらゆる機会を通じて私たちの声を国や自治体に強く働きかけていきます。保育の質を支える、保育条件や保育者の研修・研究、処遇改善にも大いに取り組みましょう。

島根県保育協議会 副会長 舟木 弘美
(江津市 さくら保育園 園長)

6月に島根県保育協議会副会長という大役を受け、すぐに中国保育研究大会開催では、不安と戸惑いを持ちながら無事に終えることができました。皆様のご協力本当にありがとうございました。

保育制度は随時変化をしています。十分な知識を得るため、中山会長様はじめ、県保協の役員の皆様と変化する保育制度を今後しっかり学び伝えていきたいと思っています。

また子ども一人ひとりが生き生きとした生活をし、子どもたちの健やかな成長を育てていくように私たち保育者は日々精進し、子どもたちを見守っていきたく思います。2年間で指導程よろしくお願い申し上げます。

島根県保育協議会 副会長 酒井 真知子
(邑南町 市木保育園 園長)

不安と緊張の中、邑智郡の代表を引き受けて間もなく、県保協の役員という大役をお引き受けすることになりました。右も左も分からない不安、緊張、戸惑いはまさに新入園児の心境そのものでした。任期を終えられた先生方の堂々とした晴れやかな姿がとても羨ましくも思えました。そんな中で迎えた7月4日と5日の中国地区保育研究大会。大会当日まで、準備や会議を重ねてこられた関係者の方々のご苦労に感謝しつつも、何のお力になることもできませんでしたが、この大会で多くの方と出会い、交流をさせていただいたことはこれから2年間の任期を努めさせていく上で大きな力を与えてくれたように思います。

初めての県保協役員、自分の不勉強を痛感することは間違いないと思いますが、皆様のお力を借りながら多少でも視野を広げ、子ども達の笑顔が輝く保育を考えていければと思います。どうぞ、宜しく願い致します。



編集後記

役員改選まもなく、中国地区保育研究大会開催という大役を担われた新理事の皆さん、昨年度から縁の下の力持ちとして大会の開催を支えられた松江市保育研究会の皆さん、本当にお疲れ様でした。大仕事を成し終えた後の猛暑はいつになく厳しく、その後は豪雨に見舞われるなど記憶に残る2013年夏でした。

島根県

保育協議会たより

第47号

発行日:平成25年9月30日 2013 September No.47
発行者:島根県保育協議会
編集者:総務広報委員会

第59回中国地区保育研究大会記念講演 ◆講師:俳優 佐野 史郎氏

「今、子ども達に伝えたいこと」

松江市のくにびきメッセ(島根県立産業交流会館)で開催しました「第59回中国地区保育研究大会」より、俳優の佐野史郎さんによる記念講演「今、子ども達に伝えたいこと」の様態を一部ご紹介します。

* * * * *

俳優業、執筆業、音楽活動と多方面で活躍中の佐野さんは話術も軽妙洒落で、フリーアナウンサー武田志乃さんを聴き手に、俳優を志すまでの心の葛藤、愛娘への想い、未来への展望など多岐に渡る話題に演技論も交えてお話くださいました。

佐野さんの出世作はマザーコンプレックスの男性役で評判になったドラマ「ずっとあなたが好きだった」ですが、同時期に娘さんを授かったことが役づくりに影響したそうです。通常は客観的に演じていても、父親役となると実の家族への想いがもれ出ることもあるとのこと、ドラマ「アイシテルー海容ー」で我が子を失う父親役を演じ、「正直、辛かった」と本音ものぞきました。

その他様々な父親像を演じ、学びも多かったようですが、「実生活では育児は妻に頼りきりだった」と反省の弁も。けれど話の随所に娘さんを見守るおらかな眼差し、奥様を支える心遣いが垣間見られ、後の質疑応答では会場から賞賛の声が聞かれました。

話題は撮影現場で切磋琢磨する若い世代の能力の高さにもおよび、「彼らのように日本人はまだまだたくましく成長し続けられるはず。子ども達にはどんな環境下でも生き抜ける身体能力やスキルを育ててほしい」とエール。

質疑応答でコミュニケーションに関する助言を求められると、「まずは相手の話をよく聴いて趣旨を分析。礼を尽くしつつ対等な立場で相手に接するように心がけています」とご自身の流儀を披露いただきました。

結びには出席者全員に「目の前の子ども一人ひとりとしっかり向き合ってください」と願いをたくされ、「僕もいつか保育士役を演じます」と力強い宣言も。講演終了後も熱い拍手が会場を包みました。



第59回 中国地区保育研究大会

を開催しました。

去る平成25年7月4日(木)・5日(金)、松江市「くにびきメッセ(島根県立産業交流会館)」
「第59回中国地区保育研究大会」が開催され、951名の参加者がありました。
また、記念講演には、講師として俳優の佐野史郎氏においでいただきました。

第1分科会

「新たな時代の保育実践」

●助言者：広島大学大学院 准教授 中坪 史典氏
●幹事：杉本 尚子(大田市 温泉津保育所所長)

「新たな時代の保育実践」というテーマを、保育をめぐる動きの中、時代が変わっても変わってはいけないものとして、“子ども一人ひとりの健やかな育ちを保障する”ための保育環境に視点を置き研究討議されました。

「1枚の写真」を基に環境構成を考えるワークショップでは、助言者の中坪先生より、子ども中心の保育を保育者(環境)がつかぎ、発展していくことが質の高い保育となる。保育士の信念が込められることにより、子どもの自発的に行動したい気持ちが育つ。安定と夢中を大切に。というメッセージをいただきました。日々流れる保育の中で、立ち止まり今一度子どもの目線で園内を見渡すことの大切さを思い起こさせていただきました。



第2分科会

「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて」

●助言者：岡山大学大学院 教授 佐藤 暁氏
●幹事：竹内多寿子(松江市 わかたけ保育園園長)

第2分科会は、今年も参加者が非常に多く、それだけ現場では配慮を必要とする子どもたちの保育に関心が深く、また日々の実践でのさまざまな悩みも多いからだと感じた。

今年は、倉敷市の主任保育士会の提案をもとにグループ討議に時間を多く使い、日頃の保育実践の交流も大切にしながら、チェックシートの活用のは是非・保育士間の子どもの理解をどう共通なものにしていくか・保護者を一人ぼっちにさせない保護者支援など岡山大学大学院の佐藤暁先生に助言していただき今後の課題も含め話し合いを深めることが出来た。



第4分科会

「家庭や地域との連携による食育の推進」

●助言者：帝塚山大学 准教授 野口 孝則氏
●幹事：平野光徳(浜田市 美川保育園園長)

浜田市保育連盟調理部会による「食べることの楽しさを育む」として調理員自ら絵本の読み聞かせを行って、食材やクッキングへの興味を引き出し、地元のお魚

を取り入れた食育実践や野菜の栽培、収穫等五感を育てる活動を通した発表が行われ討議を行いました。

提案に対し絵本を使う活動の時間作りや調理員の苦勞点、工夫点など質問や意見交換があり、野口孝則先生より緊密なふれあいが出来、調理する働く人がわかる。絵本との完全な一致は難しいことだが、絵本に関連させ多種多様な工夫が行われている。展開が豊富に出来るのが食育のおもしろさとの助言でした。さらに保育所の食育の在り方、進め方の大切な講義を頂き、美味しさは人間の体とところを健康にするとの言葉が印象的でした。



第5分科会

「保育の社会化にむけて」

●助言者：島根大学 副学長 肥後 功一氏
●幹事：石倉淳子(松江市 ひよし第2保育園園長)

とかく今の社会には幼稚園に比べ保育所保育には教育の部分がないという誤解や偏見が定着しているように見受けられるが保育所にも「教育」があるということを社会に発信し、理解を深めてもらうと行われた実践について発表があった。

提案発表後グループ討議を行い、肥後功一先生より、まず「教育」を語る前に「養護」について語れるようにならないと話し出され、保育所の特性である「養護と教育の一体化」「人の育ちにおいて養護性を保障してこそ教育が積み上げられていく大切さ」について指導・助言を頂いた。



第3分科会

「保育の資質向上を図る」

●助言者：島根県立大学短期大学部 副学長 山下 由紀恵氏
●幹事：吉村里恵(益田市 原浜保育所所長)

「保育者の資質向上を図る」をテーマに、鉄棒あそびに取り組んだ実践から、保育士の気づきや実践の捉え方、子ども主体の保育とは、などを検討材料にして保育士の専門性を検証しました。

現場で保育士はどう育つのか、それぞれの保育所で研修体制の振り返りの必要性や、園内研修の考え方などを助言いただき、保育の基本や保育実践の基本などは園内の研修から学ぶなど、園内でのキャリアに応じた学び、そして保育所内外での研修体制の構築の必要性とそのヒントをいただいた分科会でした。



第6分科会

「公立保育所の使命と地域社会での役割」

●助言者：大阪府立大学 教授 関川 芳孝氏
●幹事：木戸 淳子(安来市 飯梨保育所所長)

地域に愛される子育て支援の拠点は公立の使命・役割であるという考えから地域の良さを子ども達に知らせ、地元へ愛着を持たせ、地域の人に保育園の存在を知ってもらう活動として『散歩』をしている事。将来を見据えた保護者同志のつながりが作れるような行事の工夫とその成果などの提案発表がありました。

関川先生から、時代が求める保育所の役割を①地域・保護者のニーズを知る ②保育に対する安心・信頼で選ばれる ③行政の諸機関、地域の社会資源とつながる ④子どもの育ちを支えたり公立保育所の役割に関して提言するなどを通して実践して欲しい。民間保育所と行政内の両方にむけた情報発信を公立保育所からすべきと助言していただきました。



中国地区保育研究大会 次期開催は

来年、第60回中国地区保育研究大会(平成26年7月17日(木)~18日(金))が、広島県広島市のANAクラウンプラザホテル(広島市中区中町7-20)で開催されます。
慶応義塾大学教授 駒村 康平氏を講師にお迎えした、記念講演が予定されています。

